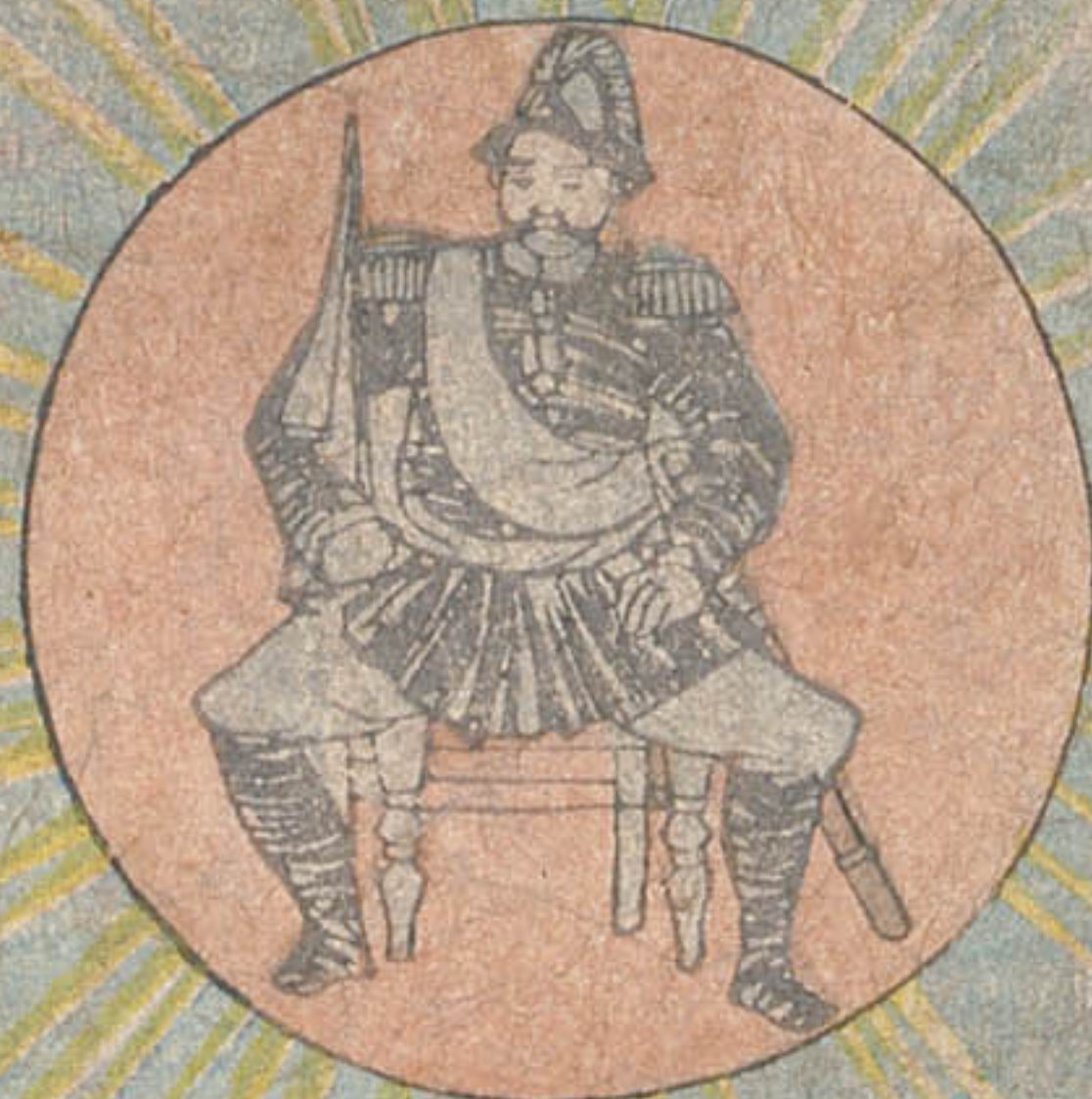


西南珍聞

廣見島
各縣



遊星に―と恒星の何れか
其輝をま―年期き―と
其運行線道の太陽に近づれ
たるみ―火星地球も又
近寄る―とある故みむるも
増―そのか―大さくも元々
なりと東京繪入新聞より出ると
茲は畧しを記すものなり

光明を發する故み一目見て

土星なるが―おろく常み

火星の南方に當り輝く
木星なる北方に薄くかざる

は―て異なる星の何れか

日々盛んなりと雖も是は火星

夜と更なる―と此妄説

あつたれど此處彼處の物干で

陸軍六將の官服を着て居る

望遠鏡で能見ると西郷隆盛が

異之方に現はる赫色の星と

大阪日報此節毎夜一時頃より

俗稱西郷星之圖



十年八月三日御届
出版人山本平吉

國政

長谷川工部省地
圖部竹内栄久

1-2-29 8333